



TITLE:

研究者のキャリアを考える(生物物理若手の会第49回夏の学校,研究会報告)

AUTHOR(S):

橋本, 昌隆

CITATION:

橋本, 昌隆. 研究者のキャリアを考える(生物物理若手の会第49回夏の学校,研究会報告). 物性研究 2010, 94(2): 265-268

ISSUE DATE:

2010-05-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/169299>

RIGHT:

研究者のキャリアを考える

橋本 昌隆

株式会社フューチャーラボラトリ

最近「ポストドクター（以下、ボスドク）問題」が各メディアに取り上げられ、社会的関心が急速に高まり始めてきた。しかし、「ボスドク問題」は、一般市民にとっては身近な問題ではなく、多くのニュースの中の一つとして認識される程度にとどまっている。

我が国では、「末は博士か大臣か」と昔からいわれてきたように、日本を代表する優秀な人材が博士に、そして、科学技術の進歩やイノベーションの先駆者として社会的地位及び高いステータスを持つというイメージが定着してきた。しかし、ベルリンの壁崩壊、東西冷戦終結、バブル経済崩壊など、従来の社会体制・システムが徐々に崩れゆく中、我が国固有の博士の役割、期待もまた、大きく変化しつつある状況を迎えた。

現在、修士課程、博士課程から大学における研究職（いわゆる教授、准教授、助教等）ポストを期待することは、研究者のキャリアとしては、一般的な就業に比べ研究者本人が負うリスクが非常に高くなってきている。こうした認識は、大学、研究機関の学生や職員に静かに、そして深く浸透しはじめ、その結果、博士課程の進学者、および35歳以下のボスドク等は徐々に減少し始めている。

こうした変化の中、大学、研究機関において15年以上にわたって研究開発や自己研鑽にほとんどの時間を費やしてきた35歳以上のボスドクは、非常に厳しい現実と対峙しなくてはならなくなってきている。

平成17年度に東京大学先端科学技術研究センターの科学技術振興調整費（スーパーCOE）終了にあたって、合計100名余りのボスドク、特任助手（助教）、特任助教授（准教授）の任期終了に伴う新しい就業環境整備（就業機会拡大）のサポートを行った。これをきっかけに、ボスドク問題に係わるようになったのだが、この仕事は従来持っていた博士、大学に対するイメージを大きく覆すこととなった。

その後、3年余り、延べ1000名以上のボスドク、大学教授、大手製造業役員、人事担当者、研究開発実務者、ベンチャー企業経営者、官公庁政策担当者などと、この問題でディスカッションを重ねてきた。こうしたディスカッションの中で、このまま現状を放置した場合、これまで積み重ねてきた研究人材育成システムが崩壊し、我が国の科学技術力が大きく衰退するのではないかという危機感が強くなってきた。科学技術政策の成果を短期間に問うことは難しい。しかし、今この間に解決を放置することは、今後、我が国の科学技術政策を10年以上空白化させてしまうかもしれないという問題意識を持って、自らの考えや想いを講演、執筆などさせていただくようになった。

今回は、現場で実際に遭遇した「生の体験談、事例」をベースに、今までの政策の流れ、現状、提言など幅広くお話ししたい。

【年度比較(文部科学省 政策研究所調査資料より)】

年齢別	平成16年		平成17年		増減	
	割合	人数	割合	人数	割合	人数
29歳以下	27.8%	4129	25.7%	3982	▲ 2.1%	▲ 147
30歳～34歳	46%	6833	45.8%	7097	▲ 0.2%	+ 264
35歳～39歳	16.4%	2436	17.8%	2758	+ 1.4%	+ 322
40歳以上	9.3%	1381	10.3%	1596	+ 1%	+ 215

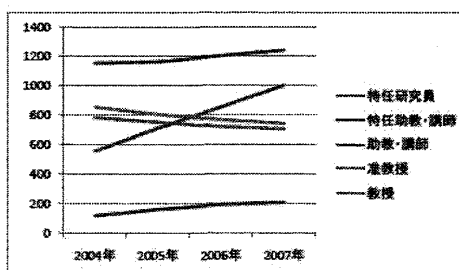
7

【最新資料(H210116 大阪大学資料より)】

在籍	全学	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
任期付	特任研究員	554	708	852	1000	
	特任助教・講師	118	180	193	208	
	小計	672	888	1045	1208	
終身職	助教・講師	1151	1160	1200	1237	
	准教授	778	747	719	703	
	教授	852	802	763	738	
	小計	2781	2709	2681	2678	
	合計	3453	3577	3726	3886	

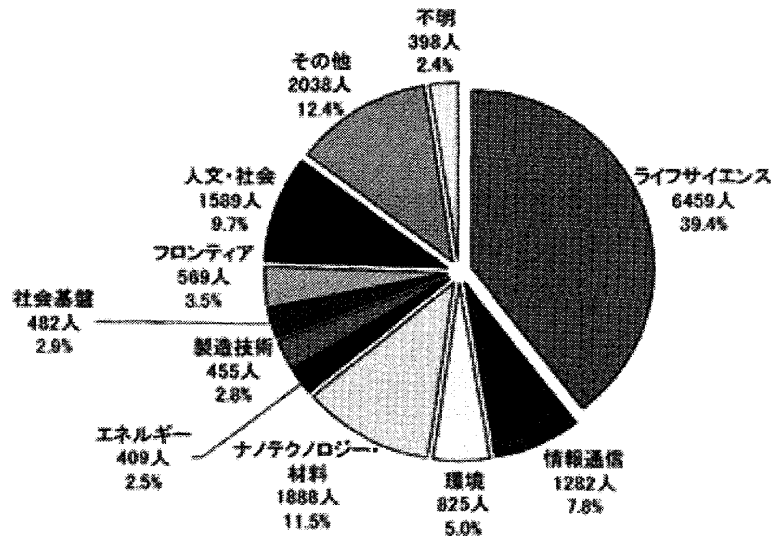
増減	全学	2004年	2005年	2006年	2007年	通算
任期付	特任研究員		154	144	148	446
	特任助教・講師		42	33	15	90
	小計		196	177	163	536
終身職	助教・講師		9	40	37	86
	准教授		-31	-29	-15	-75
	教授		-50	-38	-25	-114
	小計		-72	-28	-3	-103
	合計		124	149	160	433

採用数	全学	2004年	2005年	2006年	2007年
任期付	特任研究員	554	381	418	457
	特任助教・講師	121	140	88	93
	小計	675	521	506	550
終身職	助教・講師	148	130	145	149
	准教授	24	23	25	43
	教授	30	10	11	21
	小計	202	163	181	213
	合計	877	684	687	763



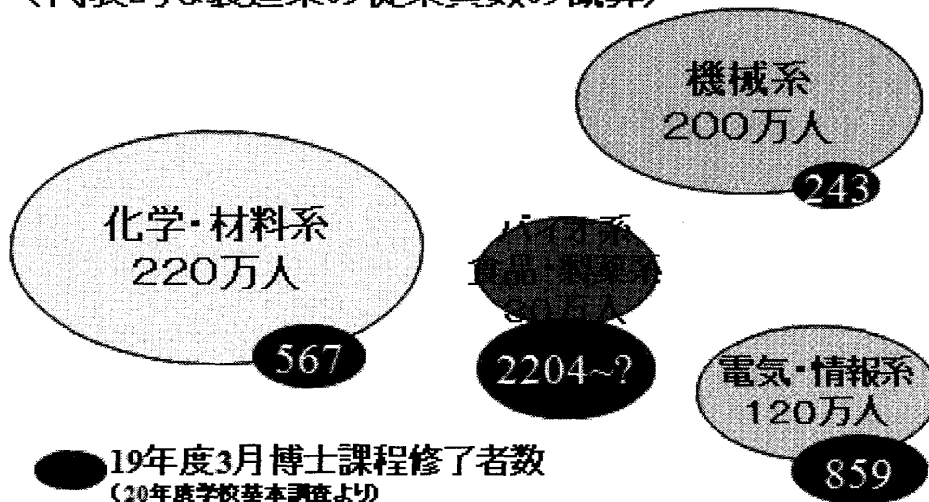
11

ポストドクの多くは「バイオ系」



大学・公的研究機関等におけるポストドクター等の雇用
状況調査 - 2006年度調査 - 科学技術政策研究所

理工系(メーカー)の産業規模の比較 (代表的な製造業の従業員数の概算)



バイオは産業規模に対する博士数が突出して多い！

※ 経済産業省・厚生労働省のデータより

